

外国語への招待

2023年度



▲大正12年に行われたフランス語劇「青い鳥」。右端が小林多喜二、隣が伊藤整。



▲「商業英語通信規範（最新補遺版：1932）」
著者は本学3代校長の吉米地英俊先生。

小樽商科大学言語センター

外国語への招待

目次 CONTENTS

外国語への招待 1

外国語の履修について 2

昼間コース

英語 3

ドイツ語 5

フランス語 7

中国語 9

スペイン語 11

ロシア語 13

韓国語 15

夜間主コース

英語 17

ドイツ語 18

フランス語 20

中国語 22

外 国 語 へ の 招 待

言語センター長 山田 久就

新入生の皆さん、小樽商科大学へようこそ。本学を選んで入学してくれた皆さんを大いに歓迎いたします。大学生としての新生活に不安を感じている面もあるでしょうが、同時に、新たなチャレンジに立ち向かう意欲も心の中で高まっているのではないかでしょうか。いろいろな困難が待ち受けているかもしれません、皆さんの若い力で立ち向かっていって欲しいと思います。

さて、皆さんがすぐに考えなければならない事の一つに、外国語の選択があります。本学では外国語科目として2外国語を必ず履修する必要があります。昼間コースでは7外国語（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、韓国語）から2外国語を選びます。夜間主コースでは英語の履修が必須で、その他、3言語（ドイツ語、フランス語、中国語）から1言語を選びます。夜間主コースではスペイン語、ロシア語、韓国語を必修外国語科目として履修することはできませんが、昼間コースのスペイン語、ロシア語、韓国語を、第3外国語として、履修することができます。

大学生の国際スタンダードは2つの外国語を修得することです。7あるいはそれ以上の数の外国語から全ての学生に2言語の選択必修を課している大学は道内では本学以外見当たりません。これは、本学に創立以来伝わる外国語重視の伝統があるからです。

本学のモットーは「実学・語学・品格」です。なぜここに語学があるのかと言うと、本学は明治末期から世界に通用する商業人の養成を目的としており、語学は世界を舞台に活躍する人材にとって、なくてはならない道具だからです。このモットーに従い、本学は戦前から多くのネイティヴ・スピーカーを講師に迎え、語学教育に力を注いきました。本学が輩出した二人の作家、小林多喜二と伊藤整が、小樽市民を前にしてメーテルリンクの『青い鳥』をフランス語劇として演じたのも、教養語学を重んじた本学の校風を体現する一風景でした。以来、社会科学系単科大学であるにも係わらず、「北の外国語学校」と呼ばれるほどの語学教育充実度が、ここでは維持されているのです。

では、外国語選択に話を戻しましょう。皆さんは最低でも2つの外国語を学ぶことになりますが、

外国語教育を本学で担当している部門が言語センターです。

まず、皆さんは最初の2年間で、必修の2外国語（1年次生向けの「～語I」および2年次生向けの「～語II」）を修得します。

外国語の力をさらに伸ばしたい人は次のような科目を履修することができます。

英語では、商学科英語専修コース等に英語に関する多彩な科目が開かれています。また、英語に関するテーマを扱うゼミも行われています。

英語以外では、3,4年次生向けの「上級外国語」（専門共通科目）が用意されていて、長年、6言語で提供しています。また、1年次生向けの基礎科目「外国語コミュニケーション」も外国語科目を補強する科目として開講されています。

さらに、外国語学習の集大成として、海外への留学も可能です。本学には現在17カ国・地域の23の協定締結大学に向けた学生派遣プログラムがあり、半年または1年の留学によって実際の異文化体験を享受する学生も少なくありません。

施設の点でも、本学は着実に進歩しています。LL教室2室、BL教室4室といった語学授業向けの教室の他に、言語センターには学生の自習用にマルチメディア・ライブラリーがあります。ここでは、外国（語）に関する豊富な資料を、AV機器やPCを備えた個人ブースで視聴することができます。音声教材、映画作品、ラジオやテレビ講座、英字新聞、多読・速読用の洋書、TOEICや各種検定試験等の問題集など、様々な資料・教材を揃えていますので、皆さん、入学後は言語センターのマルチメディア・ライブラリーをぜひ積極的に、総合的に活用してください。

現在、インターネットやSNSの発達によって世界は狭くなり、いろいろな言語で書かれた、あるいは、話されている情報がいろいろなところに散らばっています。皆さんが複数の外国語を学ぶことによって自らの価値観を相対化し、世界に対する公正な判断能力を養い、グローバル社会のより良きプレーヤーになれるることを願っています。本学はそんな皆さんを様々な場面でサポートします。

外国語の履修について

昼間コース

昼間コースでは、入学前に、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、韓国語の中から2外国語を選ばなければなりません。英語以外の言語選択は抽選となりますので、必ず期日までに、本学HPより履修志望を登録してください。

以下、英語とドイツ語を例に、外国語Iおよび外国語IIの履修方法を説明します。フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、韓国語の履修方法はドイツ語の履修方法と同じです。

- 1年次では、英語Iの4単位とドイツ語Iの4単位、計8単位を履修します。
- 英語I(IA・IB・IC・ID)は、半期、週1回の授業で1単位の科目で、合計4単位が必要です。

入学直後にプレイスメントテストを行い、レベル別（基礎、標準、発展）にクラスを指定します。必ず受験して下さい。（*ただし、新型コロナウィルスの感染状況によっては、プレイスメントテストは実施せず、別の方法でクラスを決定する可能性もあります。）

- ドイツ語I(I-1・I-2)は、半期、週2回の授業で2単位の科目で、前期2単位、後期2単位の合計4単位が必要です。
- 2年次では、英語とドイツ語のどちらか一方をIIAコース(4単位)、他方をIIBコース(2単位)として選択します。

英語をIIAコース、ドイツ語をIIBコースとする場合、英語が4単位、ドイツ語が2単位の履修となります。逆の場合は、ドイツ語が4単位、英語が2単位となります。いずれにせよ、2年次では計6単位が必要となります。

※ドイツ語とフランス語といった選択も可能ですが、時間割の同一時間帯に開講しているため、同一年度に同時履修することはできません。

※留学生については、日本語科目を外国語科目に振り替えることができ、例えば日本語と英語や、日本語とドイツ語のような選択も可能です。

夜間主コース

夜間主コースでは、英語は必修ですので、入学前に、ドイツ語、フランス語、中国語の中から1外国語を選ばなければなりません。言語選択は抽選となりますので、必ず期日までに、本学HPより履修志望を登録してください。

- 1年次の英語I(IA・IB・IC・ID)は半期、週1回の1単位科目で、計4単位が必修となります。所属クラスについてはアンケートで希望をとり、抽選にて決定します。
- 2年次の英語IIも同様に4単位(IIA1・IIA2・IIB1・IIB2各1単位)を修得しなければなりません。
- 英語以外の外国語Iは、ドイツ語、フランス語、中国語から1つ選び、週2回の授業を受け、前期2単位、後期2単位、計4単位を修得します。

※昼間コースも夜間主コースも詳細については、入学後に配布される『履修の手引き』をご覧ください。

履修志望登録の方法

昼間コースも夜間主コースも下記本学HPより履修志望の登録を行います。これをもとに抽選にて選択言語を決定しますので、期日までに必ず登録して下さい。

小樽商科大学言語センターホームページ
外国語への招待:<https://lang.otaruuc.ac.jp/invitation/>
履修志望登録画面
外国語への招待 → 外国語選択フォームへの登録
→ 昼間コース(昼)/夜間主コース(留学生) /夜間主コース(夜)/(該当するコースを選んで下さい。)

※登録時の注意事項

- ①新入生は受験番号と氏名を入力して下さい。
- ②昼間コースは第6志望まで、夜間主コースは第3希望まで、必ず選択して下さい。
- ③昼間コースの留学生は自分の母語を履修することは出来ません。また、上級日本語を履修しない、もしくは外国語科目に振り替えない場合は、必ず第6志望まで選択して下さい。
- ④**3月27日(月)まで**に登録して下さい。
- ⑤結果は4月6日(木)に本学HP上で公開します。

近年、国際化の波は、芸術や文化、スポーツばかりでなく、乗るもの、着るもの、食べるものにまで及んでいます。海外はもとより、国内に居ながらにして、電話、ファックス、衛星、コンピュータ・ネットワーク等を利用して海外との交流が活発に行われており、世界との距離はますます短くなっています。われわれは、日本人であると同時に、国際社会の一員でもあるわけです。そのような現代において、もっとも重要な国際語の一つである英語が果たす役割は、非常に大きいといえます。英語を学ぶということは、イギリス、アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドをはじめとする英語圏の国々の文化や伝統を知ることにとどまらず、実際的な国際コミュニケーションの手段としても重要になります。

英語のカリキュラムは、以上のような点を考慮して、英語のコミュニケーション能力を総合的に高められるようクラスが組まれています。また、毎年、短期語学研修生として多くの学生がアメリカやカナダ、オーストラリアなどに留学し、さらには、本学の協定に基づく交換留学生として、英語圏の国々に長期留学する学生もいます。



【授業の紹介】

1年次の英語科目としては、IA、IB、IC、ID（各1単位）が開設されており、英語を選択した場合には、それぞれ1単位ずつ計4単位を履修しなければなりません。2年次においても、各1単位の英語科目が開設され、うち4単位を履修するコースと2単位を履修するコースに分かれます。さら

に英語を勉強したい学生は、このほかに英語上級I・II・III・IVやビジネス英語I・IIなどの商学科科目を履修することができますし、英語と密接に関連した研究指導に所属することもできます。

1年次の英語は、コア・コースのIA、IB、さまざまな内容からなるIC、e-learningのIDに分かれており、それぞれ1クラスずつ履修しなければなりません。その中でIDはセルフ・アクセス・スタディのコースとして設定されています。IDのクラス履修者は、単位修得上、本学で行われているTOEIC IPテストを受験する必要があります。IA、IBおよびICには、標準クラスのほかに、「基礎クラス」と「発展クラス」が設けられていますから、自分の英語の力に応じて、クラスを履修することになります。

2年次の英語は、英語IIAとIIBの2種類に分かれています。IIAを選択した場合にはA1/B1、A2/B2、A3、A4のすべてを修得しなければなりません。IIBを選択した場合には、A1/B1、A2/B2に加え、英語以外の外国語のIIを4単位修得しなければなりません。

英語の教材は、小説、ドラマ、映画、言語、環境問題、外国事情、文化などに関する評論・エッセイ、さらに新聞、雑誌等の記事など、非常にバラエティに富んでいます。授業の進め方も、講読形式から、映画を利用したロールプレいやアフレコ、エッセイやジャーナルのライティング、さらにはコンピュータを利用した授業にいたるまで、多様な方法がとられています。授業の評価は、おおむね試験やリポートの評点のほか、出席や授業への参加度などを含めて、総合的に判断して行われます。

以上のような授業の中で、実際に使われている英語にできるだけ多くふれ、これまで中学校と高等学校で学んできた基本的な構文を再確認して整理し、語彙力を増強するとともに、リスニング、スピーキングやライティングの力を補強するよう努めていただきたい。さらに、語学は普段の努力が重要で、授業だけではなく、BSのニュース、外国語放送の映画・ドキュメンタリーなど、TV・ラジオ・インターネット等を活用することも大切です。

また、本学には多くのDVDやCD、コンピュータを備えたマルチメディア・ライブラリがあります。授業に加え、これらを利用して自主的に努力を重ね、国際社会の一員として世界の檻舞台で活躍しうるだけの語学力を身につけることも可能です。

英語にさらに強い興味をもち、英語教員を志望する学生のためには、教職科目（教員免許の資格を取得するための専門科目）とそれに関連した研究指導（ゼミナール）が設けられています。英語系の教職科目は、英語学、英語文学、英語コミュニケーション、異文化理解、英語科教育法に関するもので、これらの科目を所定の単位数（ただし卒業所要単位には含まれないものもあります）だけ修めることによって、英語教員の道も開けます。以

外国語科目以外の英語関連科目

配当年次	科目名	備考
1 年	言語・文学特別講義	基礎科目 2 単位
	基礎ゼミナール	基礎科目 2 単位
	英作文 I	商学科科目 2 単位
	英語コミュニケーション I I	商学科科目 2 単位
	比較文化 I	商学科科目 2 単位
2 年	英作文 II	商学科科目 2 単位
	英語コミュニケーション II	商学科科目 2 単位
	英語コミュニケーション III	商学科科目 2 単位
	英語コミュニケーション IV	商学科科目 2 単位
	比較文化 II	商学科科目 2 単位
	比較文化 III	商学科科目 2 単位
	比較文化 IV	商学科科目 2 単位
	英語学特講 I	商学科科目 2 単位
	英語学特講 II	商学科科目 2 単位
	英文学特講 I	商学科科目 2 単位
3・4 年	英文学特講 II	商学科科目 2 単位
	研究指導	専門共通科目 12 単位
	ビジネス英語 I	商学科科目 2 単位
	ビジネス英語 II	商学科科目 2 単位
	英語上級 I	商学科科目 2 単位
	英語上級 II	商学科科目 2 単位
	英語上級 III	商学科科目 2 単位
	英語上級 IV	商学科科目 2 単位

下に、英語と密接に関連した科目を、配当年次別に表として挙げておきます。4 年間にわたって、英語とあわせてこれらの科目も計画的に履修するとよいでしょう。

なお、商学部商学科には、英語の教員免許取得を主目的とした英語専修のコースが設けられています。商学科英語専修については、『履修の手引き』記載の案内を参照してください。



教職科目

配当年次	科目名	備考
1 年	英語学概論 I	2 単位
	英語学概論 II	2 単位
	英語学概論 III	2 単位
	英文学概論 I	2 単位
	英文学史 I	2 単位
	英作文 I	2 単位
	英語コミュニケーション I	2 単位
	比較文化 I	2 単位
	言語学概論	2 単位
	英語学 I	2 単位
2 年	英語学 II	2 単位
	英文学概論 II	2 単位
	英文学史 II	2 単位
	英文学 I	2 単位
	英文学 II	2 単位
	英作文 II	2 単位
	英語コミュニケーション II	2 単位
	英語コミュニケーション III	2 単位
	英語コミュニケーション IV	2 単位
	比較文化 II	2 単位
3・4 年	比較文化 III	2 単位
	比較文化 IV	2 単位
	英語科教育法 I	2 単位
	英語科教育法 II	2 単位
	英語科教育法 III	2 単位
	英語科教育法 IV	2 単位

専門
コース

Deutsch
ドイツ語

皆さん、入学おめでとう。小樽商科大学での勉学のうち、皆さんにとってまず最も目新しいのは、恐らく英語以外の外国語ではないかと思われます。ここではそのトップバッターとして、ドイツ語の紹介をいたします。

【日本とドイツ、そしてヨーロッパの中でドイツ】

ドイツ語はドイツ・オーストリア・スイス・リヒテンシュタイン、あるいはベルギーやルクセンブルクの一部で使用され、これを母語とする人口は約1億3000万人ですが、北欧・南欧・東欧・ロシアはドイツと緊密な経済・文化関係があるため、ヨーロッパでは英語に準じて広く通用する言語です。

さて日本に目を転じると、遠い国であるドイツの言葉が結構多く日常会話の中で使われているのです。日本語になったドイツ語、どんなものがあるでしょう？アルバイト、これは身近なドイツ語のナンバーワンですね。他にもゼミナール、リュックサック、メルヘン、ワッペン、ワンダーフォーゲル、カルテ、ガーゼ、ゲレンデ、ヒュッテ、笑えるものではルンペンなんてのもあります。なぜ日本語にとってドイツ語はこれほど身近なのでしょう？

日本とドイツ。実はこの両国の関係は古く、明治時代初期から始まります。（江戸時代後期に日本で活躍したシーボルトは、政治的な理由から自らをオランダ人と称しておりましたが、実はドイツ人でしたので、その関係は更に古くなります。）成立間もない明治政府は、近代国家形成をドイツ（正確にはベルリンを首都とするプロイセン王国）に学んだ点が多く、近代化に必要不可欠な諸学問について、また哲学や芸術の分野においても、当時最先端を走っていたドイツから多くを輸入したのでした。つまり、世界を知り、世界を表現するためには、ドイツ語を少しでもかじっておく必要があったのです。こうして日本の知識人の先達たちが、ドイツからたくさんの言葉を持ち帰ったわけです。

【ドイツ語学習のメリット】

では、現代のわれわれがこのドイツ語を学習する意味とは何なのでしょう。例えば以下のような3点が挙げられるでしょう。

1.上に述べたように、ドイツは我が国の近代的学問の発展に多大な影響を与えた国です。戦後もまた、

ドイツと日本の両国は、経済、科学、政治、文化の分野において互いに重要なパートナーであり、共通の価値観を分かち合ってきました。ドイツ語を学ぶということは、わが国の過去と未来について思考することの大助となるでしょう。

2. ドイツも中核となっているEU（ヨーロッパ連合）の理解にも役立ちます。EUは現在27カ国の加盟国と約5億の人口を擁する大きな政治的・経済的単位であり、今日いかに問題を抱えているとは言え、EU抜きに世界の政治・経済は語れません。EUの中央銀行が置かれるドイツはリーマン・ショックからもすぐに立ち直り、ヨーロッパでは「ドイツの一人勝ち」と言われるほど強固な経済力を保っています。「世界で最も影響力のある女性」と言われたアンゲラ・メルケル前首相の政権は、難民保護政策に関しても注目されました。今後も政治面・経済面でのドイツのリーダーシップに世界の目が注がれています。

3. ドイツは福島の原発事故の後、早々と脱原発路線を決定した環境先進国でもあります。未来のエネルギー政策は言うに及ばず、社会福祉、余暇利用、女性の社会進出、地方自治などについてドイツから学ぶべき点は少なくありません。

【ドイツ語とはどんな言葉？】

学者たちが持ち帰った言葉、ということでドイツ語には堅苦しいイメージありますが、そもそもドイツ語と英語は同じ言語から枝分かれした兄弟関係にあるので、英語を学んだ皆さんにとってドイツ語の文法を理解することはさして難しくないはずです。発音は基本的にローマ字読みに近く、英語とよく似た単語でも、発音は英語よりずっと簡単です。例を挙げてみましょう。

(ド) Sie hat ein Buch. (ズイハット アイン ブック)

= (英) She has a book.

(ド) Das ist eine gute Idee. (ダス イスト アイゼ ゲーテ イデー)

= (英) That is a good idea.

(ド) Es ist kalt hier. (エス イスト カルト ヒア)

= (英) It is cold here.

どうです？簡単そうでしょう？勿論、実際の文章はこれほど単純なものばかりではなく、色々な語尾変化もありますが、数多くの練習をゆっくりとこなしていけば、恐れるには足りません。

【4年間の学習プロセス】

関連科目を組み合わせて履修することで、効率的

な学習を達成できます。

●第1段階（必修科目：ドイツ語Ⅰ／選択科目：外国語コミュニケーション）

1年次で履修する入門段階です。目標は基本的な語学能力の習得。ドイツ語の基本構造に加え、現代ドイツ語圏の生活・文化・社会の事情に触れながら4技能（話し、聞き、読み、書く）の総合力育成を目指します。

●第2段階（必修科目：ドイツ語Ⅱ）

2年次のドイツ語Ⅱは2コースに分かれて履修します。週2回履修するAコースと週1回のBコースです。Aコースはドイツ語を集中して学ぶコースで、それなりのモティベーションと努力が要求されます。Bコースも週1回とは言え、1年次に学んだ基礎の確認から発展・応用と、ドイツ語力の堅実なレベルアップを図ることができます。

●第3段階（選択科目：ドイツ語上級）

学習意欲のある3~4年次生が対象。半期あるいは1年の学習によって更に上級の総合的語学能力の獲得を目指します。

●第4段階（協定大学での留学）

本学では、2年生以上を対象とした交換留学プログラム（本学協定大学のバイロイト大学・ウィーン経済大学・ベルリン経済法律大学で半年または1年の留学）が用意されており、生きた環境の中でコミュニケーション能力を磨くことができます。語学に限らず他の科目も履修でき、取得した単位は本学で認定可能です。国際化が加速する現在、学生のうちに異文化を体験することは将来の人生にとって大きな糧となるでしょう。参加を検討してみてください。成績優秀者には奨学金も支給されます。

これらの学習の間に、札幌では「ドイツ語技能検定試験（独検）」も行われます。挑戦してみて下さい。

【ドイツ語Ⅰについて】

○授業回数：週2回（火・木）

○クラス編成：I-a、I-bの計2クラス

○クラス分け：教科書は2クラス共通ですので、授業内容に大差はありません。従って2つのクラスは学生番号順に振り分けられます。

【授業内容】

総合型の教科書を用いつつ、多彩な会話練習と文法練習を経て総合的なドイツ語基礎能力の育成を図

ります。教室ではペアでの会話練習などを通じて繰り返し練習していきますから、毎回の授業に積極的に参加していれば、自ずと語学力が身につくはずです。これに加えて、ドイツの風習や歴史について学んだりしてゆけば、今まで皆さんが知らなかったドイツ語の世界が徐々に目の前に開けてくることでしょう。

なお、選択科目として「基礎科目」の分類となる「外国語コミュニケーション」は、必修授業を補完するもので、会話力のアップに重点を置いた科目です。将来ドイツ留学を考えている人には是非お勧めします。

さて皆さん、コロナ禍が収まり、ドイツ語も履修したなら、一度ドイツを訪れてみてください。ドイツ全土に点在する美しい古都、落ち着いた大学町、古城をつなぐ街道とライン河、現代都市工学の粋を結集して変貌を遂げた首都ベルリンなど、見るべきものがたくさんあります。また4回のワールドカップ優勝を誇るドイツはサッカー大国。日本人選手が多数活躍するプロサッカーリーグ「ブンデスリーガ」などを通じて、ドイツは多彩な顔を見せてくれます。旅行でも留学でもドイツ語を使って外の世界に出てみましょう。ドイツ語を履修した皆さんに、ヨーロッパの門は大きく開かれることでしょう。



【第1問：空欄にフランス語を入れなさい】

いきなりですが、問題です。次の空欄に入るフランス語を下の選択肢から選びましょう。

フランスと言えば「(①)、平等、博愛」の国。また、フランス人と言えば(②)な人達。パリには(③)川が流れ、(④)塔からは、(⑤)大聖堂や(⑥)美術館が見える。華やかな(⑦)大通りを歩いていけば、(⑧)の凱旋門がそびえ立つ・・・。

Champs-Elysées, Eiffel, gourmet, liberté, Louvre, Napoléon, Notre-Dame, Seine

どうです、難しいのは「グルメ（食通）」「シャンゼリゼ」くらいではないでしょうか？えっ、「liberté がわからなかつた」ですって？でも、これは英語の liberty（自由）ですよ。

さらに言えば、文章中の「塔、大聖堂、美術館、大通り」も、それぞれ「tour, cathédrale, musée, avenue」で、対応する英単語も、すぐに思い浮かぶのではないか？

【第2問：フランス語の文はどれでしょう？】

- 1) I arrive at the station at six o'clock.
- 2) Ich komme um sechs Uhr am Bahnhof an.
- 3) Llego a la estación a las seis.
- 4) J'arrive à la station à six heures.
- 5) Arrivo alla stazione alle sei.

この問題は、英語に最も似ている文を選べば正解です。となれば、答えはどう見ても4番ですね。上から順に、英語、ドイツ語、スペイン語、フランス語、イタリア語なのですが、英語とフランス語は圧倒的に似ていませんか？

そもそもそれはさて、英単語の実に1/3は、フ

ランス語に由来しているのです。もしかしたら、次のフランス語も、なんとなく意味が分かるのではないでしょうか。

【問題3：フランス語の文を英語に訳しなさい】

Il est **important** d'étudier l'économie.

Je **préfère** la **musique** au **sport**.

Avez-vous **visité** la **capitale** du **Japon** ?

答えは次のとおりで、太字部分は実によく似ていますよね。

It is **important** to **study** **economics**.

I **prefer** **music** to **sports**.

Have you **visited** the **capital** of **Japan** ?

しかし、何故、英語とフランス語はこんなにも似ているのでしょうか？

【かつてイギリス王はフランス語を話していた】

今から1000年近く前の話です。フランスのノルマンディ公ギヨームが、英仏海峡を渡ってイギリスを征服しました。その結果、英國の公用語はフランス語となり、その後、およそ300年の間、上流階級の話すフランス語と、一般庶民の話す（古い）英語が併存することになりました。

そして次第に両言語は交じり合っていったのですが、フランス語が英語に与えた影響は、例えば次に見ることができます。

	動物（英語）	食肉（英語）	フランス語
羊	sheep	mutton	mouton
牛	ox	beef	bœuf
豚	pig	pork	porc

つまり、庶民が育てる動物（家畜）の名が本来の英語であるのに対し、貴族たちが贅沢に食する肉の方は、古いフランス語に由来しているのです。

このように、フランス語を学ぶうえで英語の知識は大いに役立ち、逆にフランス語の学習は英語の理解をさらに深めることは間違いません。

【だが、やっぱり英語とは異なる】

とはいっても、学習者にとっては、フランス語が英語と似ていることが、逆に難しく感じるかもしれません。例えば、先の *J'arrive à la station à six heures* という文章ですが、*arrive* は「アライ」ではなく「アリーグ」と発音します。また、*station*, *six* も「ステイション」「スイズ」となります。

この「英語式の発音を忘れてフランス語式に発音すること」が、誰もが意外と戸惑うところです。ですが、授業では、大声で、堂々と間違いましょう。そうしないと、教員は皆さんの声が聞こえず、間違いを直してあげることができません。そうなると、なかなか上達できません。

【話者数は世界 5 位、32 カ国の公用語】

さて、フランス大使館の HP によれば、現在、フランス語の話者は、世界で 5 位の 3 億人とのことです（中、英、スペイン、アラビア、フランス語の順）。ところが、いわゆるフランス人は、たったの 6750 万（20 位以下。日本人は第 11 位！）に過ぎません。

つまり、フランス語を話す人の 3/4 以上は、フランス以外に住んでいることになります。実際、フランス語を公用語とする国は 32 カ国に上り、これは英語の 58 カ国に次ぐものです。もっとも、英語にせよ、フランス語にせよ、あるいはスペイン語（22 カ国）にせよ、その拡大の背景には、植民地支配という歴史があるのですが・・・

【フランス語圏はどこ？】

次はフランス語圏の一部です。よく知られたベルギーやスイス、あるいはカナダ東部以外にも、いろんな国で話されています。

ヨーロッパ：フランス、ベルギー、スイス、モナコ

アフリカ：カメルーン、コートジボワール、セネガル、

アルジェリア、チュニジア、モロッコ

北・中米：カナダ東部、ルイジアナ、ハイチ

太平洋：ニューカレドニア、バヌアツ、仏領ポリネシア

アジア：レバノン（以前はベトナム、カンボジアなども）

これらのフランス語圏のうち、アフリカ大陸にフランス語が残されたことは非常に重要です。実際、フランス語話者の 6 割がアフリカに住んでおり、しかも、その数が急増しているのです（2014 年から 2018 年の間にフランス語話者が 17% 増）。いずれ若いアフリカが経済力をつけていけば、彼らの話すフランス語の重要性は、ますます増していくことでしょう。

こういった地理力に加え、外交（2 位）、ビジネス（3 位）、ネットでの使用（4 位）などから（日本大使館 HP）、世界経済フォーラムは、フランス語を「世界で最もパワフルな言葉」の第 3 位にランクしています（2016）。

【フランス語の授業について】

最後に授業についてですが、1 年次のフランス語 I は、アルファベットの発音に始まる「聴く・話す・読む・書く」の基礎を徹底的に手ほどきします。繰り返しますが、初めのうちは間違うのが当たり前です。堂々と間違いましょう。

2 年次のフランス語 II は、基礎から発展への段階です。皆さんの興味に応じて、週 2 回の A コースか週 1 回の B コースを選べます。どちらのコースにせよ、1 年次同様、大いに間違いながら、積極的に授業へ参加しましょう。

もっとフランス語を学びたい人には、「外国語上級（フランス語）」（3・4 年次）の履修を勧めます。この科目は 8 単位まで履修可能なので、その気になれば、4 年間、フランス語を学び続けることができます。

あるいは、フランス語検定試験にも挑戦してみませんか？ せっかく勉強するのですから、「実用フランス語技能検定試験」の 3 級か、頑張って準 2 級（以上）を取得して、就職の際の履歴書に書けるようになればいいですね。

さらに、本学では、提携校のポール・セザンヌ／エクス・マルセイユ第三大学への交換プログラムが用意されています。短期と長期があり、前期は 2 ヶ月程度のいわゆる語学留学です。後者は地中海のすぐそばで 1 年間を過ごす交換留学です。学生のうちに異文化を体験しておくことは、きっと将来への大きな糧となることでしょう。

【中国、日本、中国語】

中国は人口 14 億人を超え、国土面積は日本の約 25倍をもつ隣国です。2010 年に GDP は世界第 2 位となり、圧倒的な経済規模を持つ超大国へと成長しました。そして日本にとって最大の貿易相手国でもあり、数多くの日本企業が中国に工場やオフィスを構えています。日本を訪れる外国人観光客を見ても、中国圏からの旅行者は半数以上を占めています。グローバル化が進み国境の壁が低くなるほど、距離の近さが強い影響力をもつようです。

世界地図を眺めてみればわかるように、中国の国域はヨーロッパに匹敵する広がりをもっています。こうした広大な地域において、膨大な人々の間で共通語として使われているのが、現代中国語です。この現代中国語は、学校教育で用いられ、テレビやビジネスなど公共の場で使われていますので、中国のみならず世界各国に暮らす華僑の間でも広く話されているわけです。

【中国語の学習について】

言語の面では、私たちが用いている漢字はごく一部の文字を除いて、すべて中国語より取り入れたものです。今では意識することさえないかもしれません、日本で用いている漢字・漢語の多くは、近代以前の文章語（漢文）に基づいています。一方、現在中国で日常的に話されている現代中国語は、近代以降に言文一致運動を経て生まれた、話し言葉が中心になっています。

中国で使用される漢字は簡略化された「簡体字」で、日本の漢字とは字体の異なるものがあります。たとえば「漢字」の「漢」は“汉”となります。とはいっても簡体字の多くは、字形の近さによって日本語から意味を推測することができますし、発音も日本語の音読みに近いものが少なくありません。ただし、中国語には漢字 1 字ごとに日本語にはないトーン（声調）があり、高低アクセントが付いているという特徴があります。声調は 4 種類あり、同じ音節であっても声調の種類が異なるだけで全く意味の異なる単語になりますから、発音の練習を十分におこなう必要はあります。

しかし中国語学習者にとっては幸運なことに、今の日本はかつてないほど中国語の学習環境が整っています。今や中国系の人々を見かけない日の方が多いほどですし、本校の留学生も半数以上が中国人です。観光地やアルバイト先、通学の電車で生の中国語を耳にするとも珍しくありません。好むと好まざるとに関わらず、今や中国語は日本で使う必要性のきわめて高い言語であると言えるでしょう。



【授業の紹介】

本学の中国語教育は、中国語 I (1 年生配当)、中国語 II (2 年生配当)、中国語上級 (3、4 年生配当) の 3 段階に大きく分けることができます。また、選択科目として外国語コミュニケーション (1 年生配当) などを開講することができます。

新入生の皆さんのが最初に履修するのは、中国語 I です。本学では 5 クラス開講しています。中国語を履修することになった皆さんは、a ~ e のクラスに分かれて週 2 回の授業を受けることになります。授業は中国人と日本人の教員が週 1 回ずつ担当します。ネイティブ教員の授業では耳と口を鍛えてコミュニケーション能力を高め、日本人教員は日本人学習者の苦手な点を適切に指導します。履修単位は前期と後期に分かれていますが、基本的に全員前期と同じクラスで履修してもらいます。ただし、前期の単位を取得できなかった場合は、他の外国語と同様に、後期の履修は認められませんから注意してください。

次に、一般的な授業の内容について紹介しましょう。開講当初は各クラスとも発音の訓練を中心とした授業となります。発音練習の繰り返しは退屈に感じるかも知れませんが、中国語の学習は「発音に始まり発音に終わる」と言われています。特に最初から声調を正しく発音するのは難しいのですが、教員や C D の発音を聞き、口を大きく開けて何度も練習してください。そうすれば必ずきちんと

と通じる中国語を話せるようになるでしょう。発音ができるようになったら基本文型を学び、会話の練習を行ないます。中国語を用いた教員との応答練習はもちろん、学生同士のペアやグループで練習を行なうこともあります。

このように授業では学生の皆さんが練習することを重視しますから、出来るだけ欠席しないようにしてください。そして積極的に教室で発音や会話の練習に取り組んでください。また、分からぬことや疑問に思うことがあればどんどん質問してください。皆さんの能動的な学習意欲が、上達を早める原動力となるでしょう。

中国語Ⅱでは、中国語Ⅰで習得した基礎をもとに、より実践的な会話力や読解力、聞き取りの能力の向上がはかれられます。中国語の多様な表現や、中国語特有の考え方を学び、より深く中国を理解し、中国人と交流できるよう、学習の積み重ねが進められます。

そして皆さんは本学において中国語上級まで履修することが出来るわけですが、この中国語上級では、更に実践的で実用的な中国語能力の習得を目指しています。具体的には中国の人々との高度な会話能力の育成を目標に置き、教員と学生の皆さんとの交流をより密にして授業を進めています。この上級中国語で目指している能力を身に付ければ、中国に長期滞在して仕事や学問を進めていく道が開けることでしょう。

なお、本学は東北財経大学（遼寧・大連市）、蘭州大学（甘肅・蘭州市）と台北商業大学（台湾・台北市）と提携を結んでおり、毎年留学生の派遣や交換を行なっています。また、台中科技大学（台湾・台中市）とも交流があります。本学に留学中の中国人留学生が私たちの授業を手伝ってくれることもあります。皆さんには短期留学と長期留学の制度がありますから、日本の教室内で勉強するだけではなく、海外に飛び出して学生時代にしかできない体験に挑戦してみてください。初めに書いた通り、いま中国は日本に最も「近い」外国です。費用も安いですし、気軽においしいものが食べられます。現地で会話できるようがんばってください。

このほかに言語センターのマルチメディアライブラリには中国語語学図書（NHK中国語講座、中国語検定対策ほか）とCD、中国映画・ドラマのDVDなども備えていますから、活用して楽しく勉強してください。

【中国語の使い方】

授業で中国語の学習を始めることができたなら、それを契機として中国語を様々な方法で活用してください。語学は、その言語を勉強することだけが目的ではありません。習得した語学力を駆使して、何かを実現することに意味があります。仕事に生かすにせよ、旅行をするにせよ、それぞれ違った目標があるはずです。単位取得だけが目標の人には、授業は退屈な時間になることでしょう。より充実した時間になるよう、常に目的を考えながら勉強を進めて欲しいと思います。

前に述べたように、いまの日本は中国語との接点にあふれています。課外活動やアルバイトの時に、習った中国語で会話をする学生も今や少なくありません。

このほか、中国語履修者から志願を募り、地域貢献活動も行なっています。これまでに中国語で「小樽観光案内」を作ったり、小樽市立文学館や小樽総合博物館を中国語化するプロジェクトに取り組みました。今後とも教室で学んだ中国語を活用できるよう、教員や中国人留学生と一緒に楽しくチャレンジしてくれる人を待っています。

また、中国語圏では動画が積極的にインターネットで公開されており、映画・M T Vはもちろんのこと、テレビになると録画のほかに、生放送でほとんどの番組を見ることができます。こうした絶好の環境を利用し、自分の興味のある分野を見つけて中国語を勉強してください。そして2年間取り組むことになる外国語を、将来に結びつけてもらいたいと思います。中国のことをすべて好きになれと言っているではありません。中国でも日本でも好きなところ、嫌いなところがあって当たり前です。身近で文字が似ても、考え方まで近いわけではありません。だからこそ中国語の学習を通じて、中国をより深く理解してもらいたいと思います。なぜなら各民族の考え方は言葉にこそよく表れているからです。



【上海外灘夜景】（外灘：ワイタン、外滩：Wàitān）中国上海市中心部の黄浦区にあり、世界でも有名な観光エリアです。

【スペイン語 地中海への扉】

日本では地中海の文化もスペインもあまりよく知られていません。見当違いな誤解はされているようですけれど。これはわが国の独特な近代化と無縁ではありません。独特な近代化とは何かと言えば、それはヨーロッパの長い歴史の中から日本が近代化を決意した 19 世紀後半のみに支配的だった潮流だけを学び、うわべだけこれに同化して、一刻も早く先進国仲間入りをしようとしたという意味です。そのとき見落されたものはいくつもありますが地中海文化はそのひとつです。

この文化は一言で言えば「ゆとりの文化」です。急速に近代化をしなくてはならなかった途上国といえる日本にはこのような文化は無用のものでしたし、またそのようなものを視野に入れるゆとりもなかったのです。スペインの哲学者オルテガによればこの南の文化は「人間の理想とは樹木であり、汗水を流すことなく、ほとんどすべてのものを大地、太陽、風が与えてくれる豊かな大地のみに許されるぜいたくな文化」ということになります。この文化ではミュージカルでなくオペラが、ハンバーガーのようなファスト・フードでなくコース料理が、コーラでなくオルチャータ（アーモンド飲料）が、ませもののカクテルではなくワインが、集団でなく個人が、仕事でなく休暇が、スピードでなくのどかさが、銀行家や起業家より芸術家や詩人がはるかに尊ばれます。ある北欧の学者は「地球上をことごとくアメリカ文化がおおいつくそうとしても唯一地中海文化だけはこれに対抗しうるだろう」と述べていますが一端の真実をついているでしょう。

スペイン語にはこのような地中海文化が鏡のよ

うにくっきりと映しとられています。スペイン語はわが国の文化が長らく見すごしつづけていた地中海文化への扉となります。またもちろん、ヨーロッパの歴史上の大國、先進国の中でも、日本で最も知られていない国スペインを知る扉ともなります。ルネサンス、バロックの時代に世界に君臨し、いまなおその光輝を失わない国であることを知るでしょう。扉を開けば、地中海の風が吹き込み、スペインの光に出会えます。そしてまた広大なラテン・アメリカへの扉ともなります。

【5 億人、21 か国、国際語】

ローマ帝国のことばラテン語に起源をもつスペイン語は、現在では 4 つの大陸であわせて 21 の国と地域、約 5 億人の母語です。この言語を習得すれば 21 か国語を習得するのに等しいわけです。国連、欧州連合の公用語でもある国際語です。最近では欧州連合の国々だけでなく、スペインとの経済的結びつきが強くなっている東欧諸国でもスペイン語を学ぶ人たちが増えづけられています。ヨーロッパでスペイン語を学ぶ人たちが多いのは、スペインが長らく他の国々の憧れの地であったためもあるでしょう。19 世紀、特にロマン主義の時代に、スペインは各国の文学者たちに靈感を与え、バイロンやアンデルセンを始めとする多くの「北の人たち」が地中海のほとりのこの国を訪れ、素晴らしい詩や紀行文を書き、今日なおつづくヨーロッパ人のスペインへの憧れをかきたてました。イギリス人やドイツ人は隠退したら、あるいはできれば今すぐにでも、スペインで暮らすのが夢なのです。彼らの理想の生活は、日本人が憧れる「英国式」でも「ドイツ流」でもなく、「地中海風」もしくは「スペイン風」の暮らしなのです。それは彼らにまじってスペインで休暇を過ごせば、すぐわかることです。ヨーロッパで「英国式」や「ドイツ風」といえば、「実用本位」とか「質実剛健」を意

味し、日本で考えている「オシャレ」とか「エレガンス」とはほど遠いものです。

スペイン語はあらゆる肌の色、さまざまな国籍の人々がコミュニケーションに使う国際語です。英語だけが国際語ではありません。英語というチャンネルだけで出会える世界は決してそれほど広いものではありません。日本で日本人が素朴に信じている、あるいは信じこまされているほど英語はどこでも通じる便利なことばではありません。ヨーロッパ（大陸）に住んでいるアメリカ人が日本人よりはるかに英語が通じないことを、つまり英語の限界を実感しています。特にスペインやイタリアのような地中海の国々ではまず通じないと思った方がよいでしょう。「ここに来るならば私たちのことばを憶えなさい」というのが彼ら地中海人の発想です。「国際化」や「国際人」を語るなら、英語だけでなく、少なくともあとひとつくらいは他の文化圏の言語を習得するのは必要なことです。思いがけない視野が開けてきます。地中海もくつきり見えるでしょう。

【教室をこえて】

大学で学んだことは社会に出て役に立つかというのはしばしば耳にする議論です。外国語は間違なく役に立ちます。マドリッドやバルセロナで出会う日本人（外交官、企業の駐在員、自営業者、建築家など）は、その多くが大学で何らかの形でスペイン語を学んだ人たちです。彼らは毎日を大学で学んだことを役に立てて生きています。ラテン・アメリカの各地にはさらにそういう人たちが数多くいるでしょうし、スペイン語で学んだ上で他の言語へさらなる飛躍をしていく人も少なからずいるでしょう。もちろん日本国内でもスペイン語を使う場面はあります。これから皆さんが学ぼうとすることは教室だけで終わらないはずです。

スペイン語は I と II の授業で、2 年間かけてい

わゆるスペイン語文法を学びますが、同時に発音、会話なども学んでいきます。また、選択科目として外国語コミュニケーションや上級の授業も設置しています。上級スペイン語の終わるころには、人によっては II の終了するころでも、スペイン語の新聞、雑誌は読めるようになるはずです。図書館にはスペインの雑誌が入っていますので挑戦してみてください。もちろんインターネット上でも読みます。また政治、経済、社会、文化についてのアカデミックな文章も本人の文化や教養次第で読みこなせるはずです。スペインや中南米の文学者たちは、セルバンテスからボルヘスやガルシア＝マルケスまで、我が国の作家たちとは異なって、読んで理解されるための平易な文章を書きながら、彼らの作品を読むこともできましょう。

最後にバリエッホ・ナヘラという著名な学者がスペイン語を学ぶ外国人（つまりわれわれです）に送ったメッセージを引いておきます。「スペイン語は決して習得するのにやさしい言語ではないが習得したときに大きな喜びを与えてくれる数少ない言語のひとつである。」スペイン語を本気で学びたい学生を募ります。新入生向けの必修授業は週二回で 2 クラス、70 人程度の募集となります。適当にやって楽に単位を取りたいという学生にはまったく不向きです。

なお 2022 年のセルバンテス文化センターのレポートによると、国際語としてのスペイン語人口は相対的に増加傾向にあります。母語話者は中国語（北京語）に次ぐ 4 億 9600 万人で、全世界では学習者の数も 2400 万人以上と考えられています。母語、第二言語、外国語としては 5 億 9500 万を超える人々によって話され、規模では英語、中国語、ヒンディー語に次ぐ言語となっています。

【ロシア語の紹介】

ロシア語について考えたときに最初に思い浮かぶのは、エキゾチックな文字ではないでしょうか。英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語ではラテン語からの流れを持つラテン文字（ローマ字）を使っていますが、ロシア語では教会スラブ語からの流れを持つキリル文字を使います。ロシア語で使われている文字のアルファベットを小文字で示すと、а, б, в, г, д, е, ё, ж, з, и, й, к, л, м, н, о, п, р, с, т, у, ф, х, ц, ч, ш, щ, ъ, ы, ь, э, ю, я の 33 文字です。一見奇妙に見えますが、ロシア語で使われているキリル文字も英語などで使われているラテン文字も基本的にはギリシア語で使われているギリシア文字に起源を持ち、多くの共通点があります。ロシア語の а は英語の a、ロシア語の о は英語の o、ロシア語の к は英語の k、ロシア語の м は英語の m に対応し、ほぼ同じです。しかし、ロシア語の н は英語の h ではなく、英語の n に対応し、ロシア語の р は英語の p ではなく、英語の r に対応します。また、アルファベットの並ぶ順番も英語とロシア語には多くの共通点があります。新しい文字を覚えるのは、楽しいと思う人と、面倒だと思う人がいると思いますが、全部で 33 個しかありませんので、一晩あれば十分に覚えられる程度だと思います。友達が知らない文字を読めるのはおもしろいと思いますよ。

ロシア語は、なじみがないかもしれません、特殊な言葉ではありません。ロシア語は、英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語と言葉の起源において同じ源（祖先）を持ちます。ロシア語、英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語とその他の起源を同じくする多くの言葉が属する言葉の

グループをインド・ヨーロッパ語族と呼びますが、このグループに属するヨーロッパからインドまでの広大な範囲で話されている多くの言葉（たとえば、ヒンディー語やペルシア語なども）がロシア語と親戚関係にあるのです。ロシア語と英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語はいとこぐらいの関係です。ロシア語の兄弟はウクライナ語、ポーランド語、チェコ語などです。ロシア語と英語は言葉の上でいとこ同士ですから、ロシア語は英語と多くの類似点を持っています。日本語は英語と言葉の上で親類関係にありませんので、全くと言っていいほど違った言葉ですが、ロシア語は英語と単語、文法等において多くの共通性を示します。したがって、ロシア語を勉強するときには皆さんが既に知っている英語に関する基礎的な知識が多いに役立ちます。しかし、英語と比べて、ロシア語では一つの単語がたくさんの変形を持っています。そのため、ロシア語はしばしば「難しい」言葉の例としてあげられますが、ロシア語の難しさ、ロシア語学習の面倒くささは、もっぱら初級に集中するこの語形変化がほとんど全てだと言つても過言ではありません。例えば、発音は英語に比べると遙かに日本人にとって聞き取りやすいものですし、単語も英語より覚えやすい構造になっています。言い換えればロシア語は最初だけちょっと大変だけど、そこさえ乗り切れば後はそれほど苦労しないで済む言葉なのです。

日露関係は、経済交流を中心にゆっくりではあります、着実に進んでいて、今後もさらにスピードを上げて進んでいくでしょう。ロシアは日本のすぐそばにあるのですから、今後はロシア語の必要性が増してくると思います。現在はロシア語を使える人は少ないですから、今がチャンスです。小樽はロシアとのつながりが全国的にもとくに深い土地柄です。例えば、小樽港には毎年たくさんのロシア船が入港し、小樽の街を歩けば毎日のよ

うにロシア人の姿を見かけます。毎年ではないですが、よく、ロシアから小樽商科大学に留学生が勉強しに来ています。街角やスーパーなどでも、ロシア語での案内などがあつたりもします。覚えたロシア語を活用するにはとてもいい環境なのです。

ロシアは大きな国でいろいろな民族の人が住んでいます。ヨーロッパ風の顔をした人、日本人のような顔をした人、中東の人のような顔をした人などいろいろな人がロシアに暮らしていて、ロシア語を使えるようになると、いろいろな人と交流することができるようになります。



【授業について】

a) 到達目標

主たる目標は、第一に、日常的な会話で必要となる内容をロシア語で表現することができるようになること、第二に、ロシア語で書かれた文章をある程度のレベルであれば読むことができるようになることです。

b) 1年目の授業について

前期および後期それぞれ週2回授業があります。前期は、最初に、ロシア語の文字、発音についての説明と練習を行います。その後は、名詞、形容詞、動詞の変化などの基本的な文法を中心に、あ

いさつなど会話をする際に必要な表現も学び、それを使った会話の練習なども行います。後期は、週2回の授業のうちの一方は、名詞、形容詞、動詞の変化などの基本的な文法を中心に学びます。週のもう1回の授業は、数を使った表現を中心とした会話に必要な表現などを学びながら、前期の内容も含んだ会話の練習も行います。1年目の授業では、ロシア語を修得するにあたって必要不可欠と考えられる基礎知識を身につけるとともに、ロシア語に慣れることを目指します。外国語の授業は多くの反復練習を行い、慣れることが基本ですので、積極的に授業に参加してください。また、間違いを繰り返すことによって上達するのですから、間違うこと恐れないとともに、ロシア語に慣れることを目指します。わからないことがあつたら、いつでもいいので質問してください。

c) 2年目の授業について

2年目になると、AコースとBコースに分かれます。Aコースでは前期および後期それぞれ週2回授業を受けます。一方、Bコースでは、前期にだけ週2回の授業を受ける予定です。Aコースの前期週2回の授業とBコースの週2回の授業の内容は共通で、週2回の授業のうちの一方は、名詞、形容詞、動詞の変化などの基本的な文法を中心に学ぶ予定です。週のもう1回の授業は、インターネット上にある実際のロシア語（たとえば、wikipediaのロシア語版の項目）を読みながら、それに関連する文法や表現を学ぶ予定です。また、会話に必要な表現などを学びながら、これまでの内容も含んだ会話の練習も行う予定です。Aコースの後期は、前期と同じような流れで授業を受けますが、最後の1/3は、復習の反復練習をたくさん行う予定です。

昼間 コース

한국어 韓国語

【アンニョンハセヨ！韓国語のすすめ】

韓国語は日本語に一番近い言語です。外国語を習得する上で難しいとされる語順の差がほとんどありません。従って、日本人にはとても馴染みやすく、覚えやすい外国語だと言えます。文字と発音をしっかりと理解すれば、他の言語を凌ぐ会話能力の向上が期待できます。韓国語は大学で身につけられる「話せる外国語」の一つです。

ここで、韓国語の歴史について少し触れておきましょう。「ハングル」は15世紀、朝鮮王朝時代に創られた文字名で、言語名ではありません。それまで朝鮮では漢字が使われていたので、学問が許されなかつた女性や一般の人々にとっては、読み書きできない事が普通でした。そこで、学識がなくても誰でも簡単に読んで書けるような文字を作ろうという目的で、1443年、朝鮮王朝の第四代王である世宗大王と儒学者たちが集まって創ったのが「ハングル」文字というわけです。1446年、『訓民正音』という本の中にその仕組みや歴史をまとめて公布し、21世紀の今に到っています。この本は1997年にユネスコの世界記録遺産として登録されており、字義通り「民に正しい音を教える」つまり音を拾って文字にしていく過程を教える内容です。このようにして生まれたハングル文字は、3000を超える世界中の言語の中でも、そのプロセスが最も明確で科学的である稀な文字だと言われています。韓国語は最初から誰でも簡単に身に付けられるように工夫されていますので、発音や文字の原理が非常に理解しやすく、学びやすい言語だと言えます。

近年のアジア各地をはじめ欧米に至るまで広く起っている韓流ブームによって、日本でも韓国語の学習者が大幅に増えてきました。韓流ブームは韓国語の学習者を増加させ、さらに韓国への関心を拡大

させました。その波は日本の最北端にまで及び、2010年10月、北海道と韓国ソウル市が友好交流協定書を交わしました。それより早い2010年7月には、小樽市とソウル特別市江西区が姉妹都市を提携しており、両市は交流を続けています。

しかし、大衆文化の人気現象は、日本における「韓流」に限ったことではありません。韓国においても「日流」と言われる日本の大衆文化への強い関心や人が長い間続いている。韓国における日流現象の一例を紹介しましょう。「お元気ですか？」という名台詞で知られる岩井俊二監督の映画『Love Letter（ラヴレター）』は、小樽という町が知られるきっかけとなり、以後小樽には韓国から多くの観光客が訪れるようになりました。日本語が分からなくても「오전카데스카？（お元気ですか？）」という台詞を覚えている韓国人がたくさんいるほどです。韓国人はこの映画の物語を通して、日本人の繊細な感情の動きに感動を覚え、情緒溢れる雪景色に見惚れ、そして何よりも、悲しい過去と現在の記憶をとてもお茶目でユーモアたっぷりに描いた家族関係や恋人関係に深い感銘を受けました。1995年に韓国で上映された『Love Letter』は絶大な人気を集め、これを機に日本大衆文化への関心が急激に高まりました。この関心はやがて、日本人や日本社会、また日本文化へと広がっていきました。映画に触発された「日流」ブームは多岐に渡っており、日本の小説や、ジブリアニメに代表されるアニメーションへの根強い人気により、日本文化は今もなお、変わらぬ称賛を受けています。振り返ってみると、確かに両国の中では長年政治の面で解決できなかったわだかまりが存在しますが、その限界を大衆文化の交流を通して縫い合わせてきた韓流・日流の役割は大きかったと思います。

このような日韓における大衆文化ブームは、異文化理解、または日韓における相互理解の入り口となっています。この相互理解には「異」を自分の力で確かに見つめ、受け入れようとする姿勢が必要となります。言葉を勉強することは、その姿勢を学ぶことだと考えます。大学で提供している第二言語としての

韓国語は、この「異」を理解する入り口として、学びの場を作ろうとしています。語学の勉強だけではなく、眞の友好を目指すためには、お互に知ろうとする姿勢が必要です。そうした中で見出される人同士の繋がりや、文化や社会への理解を広げていくことを目指しています。

【授業の紹介】

韓国語Ⅰには a、b という二つのクラスがあります。履修者は学生番号順にどちらかのクラスに振り分けられ、授業内容に大差はありません。両方とも毎週火曜日、木曜日の週2回授業があり、二人の教員が曜日ごとに分担し、きめ細かく行き届いた授業をします。

授業では、読解、文法、会話のバランスに気を配ります。学習した知識を練習問題で確認し、その定着に努めますが、言葉の学習が苦しみではなく楽しみになるようなクラスにしたいと考えています。発音練習を兼ね K-Pop、ドラマ、映画などにも触れます。目標はハングルの短い文を読んで書くことができること、あいさつや自己紹介、買い物、食堂での注文などが韓国語ができるようになることです。

韓国語ⅡA にも韓国語Ⅰと同じく a、b という二つのクラスがあり、毎週火曜日、木曜日の計2コマの授業を二人の教員が分担し、行き届いた指導をします。Ⅰと同じく、読解、文法、会話のバランスに気を配った授業を行います。語学の勉強のみならず、韓国文化や韓国事情なども合わせて説明しています。韓国で恐れずに一人歩きできる会話力の習得が目標です。

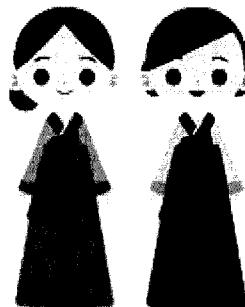
韓国語ⅡB は毎週1回、火曜日に授業があります。韓国語ⅡA と同じく文法と会話を同時に勉強します。週1回の授業ですが、目標はⅡA と同じであり、学習内容もそれほど異なっていません。

続く上級外国語Ⅰ（韓国語）では、韓国語ⅡA や韓国語ⅡB の内容を踏まえ、平易な文章から少し複雑な文章まで、徐々に分量を増やしながら韓国語の読解力を養います(TOPIK3 級レベル)。文法や語彙の確

認のみならず、内容に応じて韓国の文化、歴史、習慣、さらに現在の韓国事情に到るまで、多方面から韓国や韓国語を概観します。

最後に上級外国語Ⅱ（韓国語）は、今まで学んできた韓国語の総体として、少しレベルアップされた内容となります(TOPIK4 級レベル)。文章も最初は短文から練習し、徐々に複文が書けるように練習します。大学生活、お国自慢、趣味など、身近なテーマについて韓国語で書けることを目指しています。

以上のように、韓国語は4年間の大学時代を通して、習得できる「身近な外国語」という位置づけで、皆さんの取り組みを積極的にサポートします。韓国語の勉強を通して、より身近な存在として韓国を感じてもらう、即ち異文化理解の入口として韓国語を始めてみてはいかがでしょうか。気軽にその第一歩を踏み出してみてください。



夜間主 English
コース 英語

近年、国際化の波は、芸術や文化、スポーツばかりでなく、乗るもの、着るもの、食べるものにまで及んでいます。海外はもとより、国内に居ながらにして、電話、ファックス、衛星、コンピュータ・ネットワーク等を利用して海外との交流が活発に行われており、世界との距離はますます短くなっています。われわれは、日本人であると同時に、国際社会の一員でもあるわけです。そのような現代において、もっとも重要な国際語の一つである英語が果たす役割は、非常に大きいといえます。英語を学ぶということは、イギリス、アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドをはじめとする英語圏の国々の文化や伝統を知ることにとどまらず、実際的な国際コミュニケーションの手段としても重要になります。

英語のカリキュラムは、以上のような点を考慮して、英語のコミュニケーション能力を総合的に高められるようクラスが組まれています。また、毎年、短期語学研修生として多くの学生がアメリカやカナダ、オーストラリアなどに留学し、さらには、本学の協定に基づく交換留学生として、英語圏の国々に長期留学する学生もいます。

【授業の紹介】

夜間主コースでは、英語 IA・IB・IC・ID (1 年次配当) 計 4 単位と英語 II A1・II A2・II B1・II B2 (2 年次配当) 計 4 単位が開設されており、全 8 単位が必修となっています。1 年次週 2 クラス、2 年次週 2 クラス、計 8 単位を必ず修得しなければなりません。なお、1 年次にも 2 年次にも、標準クラスの他に「基礎クラス」が設けられていますので、自分の英語の力に応じてクラスを選択することができます。

英語の教材は、小説、ドラマ、映画や、言語、環境問題、外国事情、文化などに関する評論・エッセイ、さらに新聞、雑誌等の記事など、非常にバラエティに富んでいます。授業の進め方も、講読形式から、映画を利用したロールプレいやアフレコ、エッセイやジャーナルのライティング、さらにはコンピュータを利用した授業にいたるまで、多様な方法がとられています。授業の評価は、おむね試験やリポートの評

点のほか、出席や授業への参加度などを含めて、総合的に判断して行われます。

以上のような授業の中で、実際に使われている英語にできるだけ多くふれ、これまで中学校と高等学校で学んできた基本的な構文を再確認して整理し、語彙力を増強するとともに、リスニング、スピーキングやライティングの力を補強するよう努めていただきたい。さらに、語学は普段の努力が重要で、授業だけではなく、BS のニュース、外国語放送の映画・ドキュメンタリーなど、TV・ラジオ・インターネット等を活用することも大切です。また、本学には多くの DVD や CD、コンピュータを備えたマルチメディア・ライブラリがあります。授業に加え、これらを利用して自主的に努力を重ね、国際社会の一員として世界の檻舞台で活躍しうるだけの語学力を身につけることも可能です。

英語にさらに強い興味をもつ学生のためには、英語上級 I・II・III・IV やビジネス英語 I・II などの商学科科目や教職科目（教員免許の資格を取得するための専門科目）が設けられています。これらの科目は、昼間コースの時間帯に開講されますが、夜間主コースの学生でも履修することが可能です。英語系の教職科目は、英語学、英語文学、英語コミュニケーション、異文化理解、英語科教育法に関するもので、これらの科目を所定の単位数（ただし、卒業所要単位には含まれないものもあります）だけ修めることによって、英語教員の道も開けます。（具体的な科目については 4 頁の表を参照して下さい）。4 年間にわたって、英語とあわせてこれらの科目も計画的に履修するとよいでしょう。

なお、商学部商学科には、英語の教員免許取得を目的とした英語専修のコースが設けられています。商学科英語専修については、『履修の手引き』記載の案内を参照してください。



TO BE OR NOT TO BE

That is the
question.
—WILLIAM SHAKESPEARE



皆さん、入学おめでとう。小樽商科大学での勉学のうち、皆さんにとってまず最も目新しいのは、恐らく英語以外の外国語ではないかと思われます。ここではそのトップバッターとして、ドイツ語の紹介をいたします。

【日本とドイツ、そしてヨーロッパの中でドイツ】

ドイツ語はドイツ・オーストリア・スイス・リヒテンシュタイン、あるいはベルギーやルクセンブルクの一部で使用され、これを母語とする人口は約1億3000万人ですが、北欧・南欧・東欧・ロシアはドイツと緊密な経済・文化関係があるため、ヨーロッパでは英語に準じて広く通用する言語です。

さて日本に目を転じると、遠い国であるドイツの言葉が結構多く日常会話の中で使われているのです。日本語になったドイツ語、どんなものがあるでしょう？アルバイト、これは身近なドイツ語のナンバーワンですね。他にもゼミナー、リュックサック、メルヘン、ワッペン、ワーディング、カルテ、ガーゼ、ゲレンデ、ヒュッテ、笑えるものではレンペンなんてのもあります。なぜ日本語にとってドイツ語はこれほど身近なのでしょう？

日本とドイツ。実はこの両国の関係は古く、明治時代初期から始まります。（江戸時代後期に日本で活躍したシーボルトは、政治的な理由から自らをオランダ人と称しておりましたが、実はドイツ人でしたので、その関係は更に古くなります。）成立間もない明治政府は、近代国家形成をドイツ（正確にはベルリンを首都とするプロイセン王国）に学んだ点が多く、近代化に必要不可欠な諸学問について、また哲学や芸術の分野においても、当時最先端を走っていたドイツから多くを輸入したのでした。つまり、世界を知り、世界を表現するためには、ドイツ語を少しでもかじっておく必要があったのです。こうして

日本の知識人の先達たちが、ドイツからたくさんの中の言葉を持ち帰ったわけです。

【ドイツ語学習のメリット】

では、現代のわれわれがこのドイツ語を学習する意味とは何なのでしょう。例えば以下のような3点が挙げられるでしょう。

1. 上に述べたように、ドイツは我が国の近代的学問の発展に多大な影響を与えた国です。戦後もまた、ドイツと日本の両国は、経済、科学、政治、文化の分野において互いに重要なパートナーであり、共通の価値観を分かち合ってきました。ドイツ語を学ぶということは、わが国の過去と未来について思考することの大助となるでしょう。

2. ドイツも中核となっているEU（ヨーロッパ連合）の理解にも役立ちます。EUは現在27カ国加盟国と約5億の人口を擁する大きな政治的・経済的単位であり、今日いかに問題を抱えているとは言え、EU抜きに世界の政治・経済は語れません。EUの中央銀行が置かれるドイツはリーマン・ショックからもすぐに立ち直り、ヨーロッパでは「ドイツの一人勝ち」と言われるほど強固な経済力を保っています。「世界で最も影響力のある女性」と言われたアンゲラ・メルケル前首相の政権は、難民保護政策に関する注目されました。今後も政治面・経済面でのドイツのリーダーシップに世界の目が注がれています。

3. ドイツは福島の原発事故の後、早々と脱原発路線を決定した環境先進国でもあります。未来のエネルギー政策は言うに及ばず、社会福祉、余暇利用、女性の社会進出、地方自治などについてドイツから学ぶべき点は少なくありません。

【ドイツ語とはどんな言葉？】

学者たちが持ち帰った言葉、ということでドイツ語には堅苦しいイメージありますが、そもそもドイ

ツ語と英語は同じ言語から枝分かれした兄弟関係にあるので、英語を学んだ皆さんにとってドイツ語の文法を理解することはさして難しくないはずです。発音は基本的にローマ字読みに近く、英語とよく似た単語でも、発音は英語よりずっと簡単です。例を挙げてみましょう。

- (ド) Sie hat ein Buch. (ズイー ハット アイン ブック)
= (英) She has a book.
(ド) Das ist eine gute Idee. (ダス イスト アイネ グーテ イデ-)
= (英) That is a good idea.
(ド) Es ist kalt hier. (エス イスト カルト ヒア)
= (英) It is cold here.

どうです？簡単そうでしょう？勿論、実際の文章はこれほど単純なものばかりではなく、色々な語尾変化もありますが、数多くの練習をゆっくりとこなしていけば、恐れるには足りません。

【交換留学について】

夜間主のドイツ語の授業は週2回、1年間のみですが、希望者は昼間コースのドイツ語関連授業を履修することも可能です。それについては本冊子5、6頁を参考にして下さい。

また本学では、協定校における半年または1年の交換留学制度が整備されています（バイロイト大学・ウィーン経済大学・ベルリン経済法律大学）。参加者は国際的な環境の中でコミュニケーション能力を磨くことができます。夜間主の学生も意欲的に挑戦してみて下さい。

* * * * *

さて皆さん、コロナ禍が収まり、ドイツ語も履修したなら、一度ドイツを訪れてみてください。ドイツ全土に点在する美しい古都、落ち着いた大学町、古城をつなぐ街道とライン河、現代都市工学の粋を結集して変貌を遂げた首都ベルリンなど、見るべきものがたくさんあります。また4回のワールドカップ優勝を誇るドイツはサッカーダ国。日本人選手が

多数活躍するプロサッカーリーグ「ブンデスリーガ」などを通じて、ドイツは多彩な顔を見せてくれます。旅行でも留学でもドイツ語を使って外の世界に出てみましょう。ドイツ語を履修した皆さんに、ヨーロッパの門は大きく開かれることでしょう。



【第1問：空欄にフランス語を入れなさい】

いきなりですが、問題です。次の空欄に入るフランス語を下の選択肢から選びましょう。

フランスと言えば「(①)、平等、博愛」の国。また、フランス人と言えば(②)な人達。パリには(③)川が流れ、(④)塔からは、(⑤)大聖堂や(⑥)美術館が見える。華やかな(⑦)大通りを歩いていけば、(⑧)の凱旋門がそびえ立つ・・・。

Champs-Elysées, Eiffel, gourmet, liberté,
Louvre, Napoléon, Notre-Dame, Seine

どうです、難しいのは「グルメ（食通）」「シャンゼリゼ」くらいではないでしょうか？えつ、「libertéがわからなかった」ですって？でも、これは英語の liberty（自由）ですよ。

さらに言えば、文章中の「塔、大聖堂、美術館、大通り」も、それぞれ「tour, cathédrale, musée, avenue」で、対応する英単語も、すぐに思い浮かぶのではないでしょうか？

【第2問：フランス語の文はどれでしょう？】

- 1) I arrive at the station at six o'clock.
- 2) Ich komme um sechs Uhr am Bahnhof an.
- 3) Llego a la estación a las seis.
- 4) J'arrive à la station à six heures.
- 5) Arrivo alla stazione alle sei.

この問題は、英語に最も似ている文を選べば正解です。となれば、答えはどう見ても4番ですね。上から順に、英語、ドイツ語、スペイン語、フランス語、イタリア語なのですが、英語とフランス語は圧倒的に似ていませんか？

そもそもそのはずで、英単語の実に1/3は、フ

ランス語に由来しているのです。もしかしたら、次のフランス語も、なんとなく意味が分かるのではないかでしょうか。

【問題3：フランス語の文を英語に訳しなさい】

Il est **important** d'étudier l'économie.

Je **préfère** la **musique** au **sport**.

Avez-vous **visité** la **capitale** du **Japon** ?

答えは次のとおりで、太字部分は実によく似ていますよね。

It is **important** to **study** **economics**.

I **prefer** **music** to **sports**.

Have you **visited** the **capital** of **Japan** ?

しかし、何故、英語とフランス語はこんなにも似ているのでしょうか？

【かつてイギリス王はフランス語を話していた】

今から1000年近く前の話です。フランスのノルマンディ公ギヨームが、英仏海峡を渡ってイギリスを征服しました。その結果、英国の公用語はフランス語となり、その後、およそ300年の間、上流階級の話すフランス語と、一般庶民の話す（古い）英語が併存することになりました。

そして次第に両言語は交じり合っていったのですが、フランス語が英語に与えた影響は、例えば次に見ることができます。

	動物（英語）	食肉（英語）	フランス語
羊	sheep	mutton	mouton
牛	ox	beef	bœuf
豚	pig	pork	porc

つまり、庶民が育てる動物（家畜）の名が本来の英語であるのに対し、貴族たちが贅沢に食する肉の方は、古いフランス語に由来しているのです。

このように、フランス語を学ぶうえで英語の知識は大いに役立ち、逆にフランス語の学習は英語の理解をさらに深めることは間違ひありません。

【だが、やっぱり英語とは異なる】

とはいっても、学習者にとっては、フランス語が英語と似ていることが、逆に難しく感じるかもしれません。例えば、先の *J'arrive à la station à six heures* という文章ですが、*arrive* は「アライヴ」ではなく「アリーヴ」と発音します。また、*station*, *six* も「ステイション」「スイズ」となります。

この「英語式の発音を忘れてフランス語式に発音すること」が、誰もが意外と戸惑うところです。ですが、授業では、大声で、堂々と間違いましょう。そうしないと、教員は皆さんの声が聞こえず、間違いを直してあげることができません。そうなると、なかなか上達できません。

【話者数は世界 5 位、32 カ国の公用語】

さて、フランス大使館の HP によれば、現在、フランス語の話者は、世界で 5 位の 3 億人とのことです（中、英、スペイン、アラビア、フランス語の順）。ところが、いわゆるフランス人は、たったの 6750 万（20 位以下。日本人は第 11 位！）に過ぎません。

つまり、フランス語を話す人の 3/4 以上は、フランス以外に住んでいることになります。実際、フランス語を公用語とする国は 32 カ国に上り、これは英語の 58 カ国に次ぐものです。もっとも、英語にせよ、フランス語にせよ、あるいはスペイン語（22 カ国）にせよ、その拡大の背景には、植民地支配という歴史があるのですが・・・

【フランス語圏はどこ？】

次はフランス語圏の一部です。よく知られたベルギーやスイス、あるいはカナダ東部以外にも、いろんな国で話されています。

ヨーロッパ：フランス、ベルギー、スイス、モナコ

アフリカ：カメルーン、コートジボワール、セネガル、

アルジェリア、チュニジア、モロッコ

北・中米：カナダ東部、ルイジアナ、ハイチ

太平洋：ニューカレドニア、バヌアツ、仏領ポリネシア

アジア：レバノン（以前はベトナム、カンボジアなども）

これらのフランス語圏のうち、アフリカ大陸にフランス語が残されたことは非常に重要です。実際、フランス語話者の 6 割がアフリカに住んでおり、しかも、その数が急増しているのです（2014 年から 2018 年の間にフランス語話者が 17% 増）。いずれ若いアフリカが経済力をつけなければ、彼らの話すフランス語の重要性は、ますます増していくことでしょう。

こういった地理力に加え、外交（2 位）、ビジネス（3 位）、ネットでの使用（4 位）などから（日本大使館 HP）、世界経済フォーラムは、フランス語を「世界で最もパワフルな言葉」の第 3 位にランクしています（2016）。

【フランス語の授業について】

「聴き・話し・読み・書く」という 4 技能の実践練習を通して、フランス語の基礎を学びます。初めて学ぶ言葉なのですから、始めのうちは間違うのは当たり前です。くりかえしますが、堂々と大きな声で間違ってください。

とはいって、フランス語の規則を自ら意識的に定着させようと努めなければ、いつまでたっても進歩しません。語学は積み重ねなのですから、間違いつつも基本はしっかり押さえながら、反復練習を通して着実に進んでいくことが肝心です。

さて、夜間主コースのフランス語は 1 年次しか開講されず、もっと学びたい人には不満かも知れません。その場合、昼間コース科目の履修制度を利用して、2 年次の「フランス語 II」や、3, 4 年次の「フランス語上級」の履修を考えてみてください。

そうすれば、フランスでの短期語学研修や、協定校のポール・セザンヌ／エクス・マルセイユ第三大学での長期交換留学に参加することも可能になります。実際、皆さんのお先輩にも、フランス語の学習を続け、フランス語圏に留学した学生もいます。次はあなたの番となることを期待します。

【中国、日本、中国語】

中国は人口 14 億人を超える、国土面積は日本の約 25倍をもつ隣国です。2010年にGDPは世界第 2 位となり、圧倒的な経済規模を持つ超大国へと成長しました。そして日本にとって最大の貿易相手国でもあり、数多くの日本企業が中国に工場やオフィスを構えています。日本を訪れる外国人観光客を見ても、中国圏からの旅行者は半数以上を占めています。グローバル化が進み国境の壁が低くなるほど、距離の近さが強い影響力をもつようだ。

世界地図を眺めてみればわかるように、中国の国域はヨーロッパに匹敵する広がりをもっています。こうした広大な地域において、膨大な人々の間で共通語として使われているのが、現代中国語です。この現代中国語は、学校教育で用いられ、テレビやビジネスなど公共の場で使われていますので、中国のみならず世界各国に暮らす華僑の間でも広く話されているわけです。

【中国語の学習について】

言語の面では、私たちが用いている漢字はごく一部の文字を除いて、すべて中国語より取り入れたものです。今では意識することさえないかもしれません、日本で用いている漢字・漢語の多くは、近代以前の文章語（漢文）に基づいています。一方、現在中国で日常的に話されている現代中国語は、近代以降に言文一致運動を経て生まれた、話し言葉が中心になっています。

中国で使用される漢字は簡略化された「簡体字」で、日本の漢字とは字体の異なるものがあります。たとえば「漢字」の「漢」は“汉”となります。とはいえ簡体字の多くは、字形の近さによって日本語から意味を推測することができますし、発音も日本語の音読みに近いものが少なくありません。ただし、中国語には漢字 1 字ごとに日本語にはないトーン（声調）があり、高低アクセントが付いているという特徴があります。声調は 4 種類あり、同じ音節であっても声調の種類が異なるだけで全く意味の異なる単語になりますから、発音の練習を十分におこなう必要があります。

しかし中国語学習者にとっては幸運なことに、今の日

本はかつてないほど中国語の学習環境が整っています。今や中国系の人々を見かけない日の方が少ないほどですし、本校の留学生も半数以上が中国人です。観光地やアルバイト先、通学の電車で生の中国語を耳にすることも珍しくありません。好むと好まざるとに関わらず、今や中国語は日本で使う必要性のきわめて高い言語であると言えるでしょう。

**【授業の紹介】**

本学の夜間主コースでは中国語 I を 1 クラス開講しています。中国語を履修することとなった学生の皆さん、このクラスに所属して週 2 回の授業を受けることになります。授業は中国人と日本人の教員が週 1 回ずつ担当します。ネイティブ教員の授業では耳と口を鍛えてコミュニケーション能力を高め、日本人教員は日本人学習者の苦手な点を適切に指導します。履修単位は前期と後期に分かれていますが、基本的に全員前期と同じクラスで履修してもらいます。ただし、前期の単位を取得できなかった場合は、他の外国語と同様に後期の履修は認められませんから注意してください。

次に、一般的な授業の内容について紹介しましょう。開講当初は各クラスとも発音の訓練を中心とした授業となります。発音練習の繰り返しは退屈に感じるかも知れませんが、中国語の学習は「発音に始まり発音に終わる」と言われています。特に最初から声調を正しく発音するのは難しいのですが、教員や C D の発音を聞き、口を大きく開けて何度も練習してください。そうすれば必ずきちんと通じる中国語を話せるようになるでしょう。発音ができるようになったら基本文型を学び、会話の練習を行ないます。中国語を用いた教員との応答練習はもちろん、学生同士のペアやグループで練習を行なうこともあります。

このように授業では学生の皆さんが練習することを重視しますから、出来るだけ欠席しないようにしてください。そし

て積極的に教室で発音や会話の練習に取り組んでください。また、分からぬことや疑問に思うことがあればどんどん質問してください。皆さんの能動的な学習意欲が、上達を早める原動力となるでしょう。

そして中国語Ⅰの履修を終えれば、昼間に開講されている中国語Ⅱを履修することが出来ます。中国語Ⅱでは、中国語Ⅰで習得した基礎をもとに、より実践的な会話力や読解力、聞き取りの能力の向上がはかれられます。中国語の多様な表現や、中国語特有の考え方を学び、より深く中国を理解し、中国人と交流できるよう、学習の積み重ねが進められます。

そして皆さんには本学において中国語上級まで履修することが出来るわけですが、この中国語上級では、更に実践的で実用的な中国語能力の習得を目指しています。具体的には中国の人々との高度な会話能力の育成を目標に置き、教員と学生の皆さんとの交流をより密にして授業を進めています。この上級中国語で目指している能力を身に付ければ、中国に長期滞在して仕事や学問を進めていく道が開けることでしょう。

なお、本学は東北財経大学（遼寧・大連市）、蘭州大学（甘肅・蘭州市）と台北商業大学（台湾・台北市）と提携を結んでおり、毎年留学生の派遣や交換を行なっています。また、台中科技大学（台湾・台中市）とも交流があります。本学に留学中の中国人留学生が私たちの授業を手伝ってくれることもあります。皆さんには短期留学と長期留学の制度がありますから、日本の教室で勉強するだけではなく、海外に飛び出して学生時代にしかできない体験に挑戦してみてください。初めに書いた通り、いま中国は日本に最も「近い」外国です。費用も安いですし、気軽においしいものが食べられます。現地で会話できるようがんばってください。

このほかに言語センターのマルチメディアライブラリには中国語語学図書（NHK中国語講座、中国語検定対策ほか）とCD、中国映画・ドラマのDVDなども備えていますから、活用して楽しく勉強してください。

【中国語の使い方】

授業で中国語の学習を始めることが出来たなら、それを契機として中国語を様々な方法で活用してください。語学は、その言語を勉強することだけが目的ではありません。習得した語学力を駆使して、何かを実現することに意味

があります。仕事に生かすにせよ、旅行をするにせよ、それぞれ違った目標があるはずです。単位取得だけが目標の人には、授業は退屈な時間になることでしょう。より充実した時間になるよう、常に目的を考えながら勉強を進めて欲しいと思います。

前に述べたように、いまの日本は中国語との接点にあふれています。課外活動やアルバイトの時に、習った中国語で会話をする学生も今や少なくありません。

このほか、中国語履修者から志願を募り、地域貢献活動も行なっています。これまでに中国語で「小樽観光案内」を作ったり、小樽市立文学館や小樽総合博物館を中国語化するプロジェクトに取り組みました。今後とも教室で学んだ中国語を活用できるよう、教員や中国人留学生と一緒に楽しくチャレンジしてくれる人を待っています。

また、中国語圏では動画が積極的にインターネットで公開されており、映画・M T Vはもちろんのこと、テレビになると録画のほかに、生放送でほとんどの番組を見る事ができます。こうした絶好の環境を利用して、自分の興味のある分野を見つけて中国語を勉強してください。そして2年間取り組むことになる外国語を、将来に結びつけてもらいたいと思います。中国のことをすべて好きになれと言っているではありません。中国でも日本でも好きなところ、嫌いなところがあって当たり前です。身近で文字が似ていても、考え方まで近いわけではありません。だからこそ中国語の学習を通じて、中国をより深く理解してもらいたいと思います。なぜなら各民族の考え方は言葉にこそよく表れているからです。



【江南貢院】中国南京市秦淮区の夫子廟地区にある建物。宋朝により建築された科挙の試験場で、最盛期には中国最大の科挙試験場となりました。大きな赤い提灯には、左から順に「探花」（成績三位）、「状元」（首席）、「榜眼」（成績二位）と書いてあります。



小樽商科大学言語センター

〒047-8501 小樽市緑3丁目5番21号（2号館4階）

言語センター事務室 TEL : 0134-27-5280 FAX : 0134-27-5282